

若竹

第七十七号



これはいったいなんでしょう？ 答えは3ページへ

愛媛県神道青年会

事務局 〒793-8555

愛媛県西条市西田甲797 石鎚神社 内

TEL 0897-55-4044 FAX 0897-55-7242

URL <https://www.ehimeshinsei.net/>



愛媛県神道青年会

検索



年頭のご挨拶

愛媛県神道青年会

会長 田窪 たくぼ 大朗 ともあき



先ず以って、新春を寿ぎ聖寿の万歳と皇室の弥栄をお祝い申し上げますと共に、各御社頭の益々の隆昌を祈念いたします。

県内神職の皆様、昨年の十二月から一段と冬らしさが増しております。お変わりなくお過ごしでしょうか。

ワクチンを二回接種した人が八割に達したことが要因か、不明な点がありつつも、昨年秋季から感染者数が一気に減りました。そして、普段の生活を取り戻す兆しが見えてきた中で、また新たな変異株の出現とい

うことで、未だに新型コロナウイルス感染症が各所に影響を与えております。

昨年を振り返りますと、エンゼルス大谷翔平投打の活躍、日本ハムファイターズ新庄監督の誕生、オリンピック日本チームの躍動、横綱照ノ富士や松山英樹の優勝、そして、個人的にはプロ野球ドラフト会議で國學院大學から二名指名など、コロナ禍で暗かった日本をスポーツ界が明るく照らしました。

しかし、足元を見れば、慰問神楽や観月神楽、また三島森田両烈士慰霊祭や新年研修会や互礼会など、当会は諸活動を満足に実施するにいたらず、神社界や地域の方々に明るい話題を提供することができませんでした。我々の活動はまさに、県内神職の皆様方のご支援とご理解で成り立っておりますが故に、期待に応えられない悔しさと、そもそも自分自身の会長としてのリーダーシップの欠如やコミュニケーション不足もあつたのではと、リーダーの在り方を自問自答した一年でした。

リーダーの在り方は人それぞれです。トップダウンで物事の右左を決める人もいれば、全体から意見を吸い上げ柔軟に動く人、自分から発信をせず完全に部下を信頼し最後まで様子をみる人等それぞれでしょう。私は昨年、宮司に就任しました。宮司はお社をどの様に運営したいかを決める立場にあり、まさにリーダーです。従って、

物事の判断を、ある時は自身で決める時もあれば、ある時は沢山の意見を汲み取って判断しないといけない場面もあります。従って、自分で最終決断をして発信をしないといけない立場にあります。

しかし、神青の会長としては少し違う立場を取って取っています。「新しいアイデアや発想があれば役員会で上げてきてね」「この人を研修会にどうだろうか」「こういう風に作ったらどうだろうか」というヒントやきっかけは与えますが、「この事業をやってくれ」という明確な指示はしていません。その最終的な責任を会長が負うという目線で、それまでは、皆で自由に協議し、皆で事業を作り上げる事が重要だと認識しているからです。

とはいえ、いつまでもコロナ禍を理由に活動を停滞させるわけにもいきません。来年度、当会は再発足五十周年の佳節を迎えます。周年事業の提案もすでにあり、とても楽しみな年になりそうです。あつという間に一年が過ぎますが、「あつと言う間だったよね」から、「一年でこれだけの事をしたよね」と言えるような一年にしたいと同時に、リーダーとして益々その資質が私に問われています。神社界からも面白い話題を発信すべく、今一度、当会の価値を問い直し、素晴らしい事業が展開できるように誓います。

新年にふさわしい輝きを灯しています。

再発足五十周年記念事業

『移動社務所実証事業』について



【報告者】
愛媛県神道青年会 副会長
八幡浜市 大元神社
榎 宜 井上 雅仁

愛媛県神道青年会は、令和四年をもって、再発足五十周年を迎えます。再発足から襷をつないできた諸先輩方、関係者の皆様、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。再発足から五十年、青年会は、それぞれの時代に合わせた活動を行ってきました。近年は、御朱印等のブームもあり、参拝者との交流の在り方についての学習会などを開催してきました。それらの学習を通して、私たちはある課題に直面します。

課題① 地方の小さな神社には参拝者との交流の場所がない！

愛媛県、特に南予地域や、山間部の神社には、参拝者との交流の拠点となる「場所」、すなわち「社務所」がない神社が多く存在します。これでは、せっかく交流の在り方について学習しても実践ができません。

課題② 神社に神職の居場所がない！

課題①で必要とする「社務所」は、神職の居場所ともなります。境内に社務所がない↓神職の居場所がない↓参拝者との交流が持てない(参拝者の存在に気付かない)という悪循環に陥っています。特に兼業の神職が増え、祭典の時にしか装束を身に着けないという、メンバーも増えてきたのが現状です。

これらの課題を解決するため行おうのが「移動社務所実証事業」です。神社での交流の拠点となり、神職の居場所ともなり得る



ものです。軽トラックに積載するタイプの移動販売車をベースに、落ち着いた色合いの移動社務所を製作いたしました。

【今後の稼働予定】

青年会メンバーの奉務神社を中心に活用していきます。まずは「神社に神職さんがいる環境」を作ること为目标に運用していきます。青年会においても、その活用方法は模索中ではありますが、期待できる効果としては以降のようなことを考えています。

効果① 【話題性による参拝者の増加】

見た目、存在感から話題性は抜群です。参拝者の増加もあるでしょうし、今まではなかった授与品や御朱印などの頒布数も増えると考えられます。活用次第ではご祈祷の数も増えていくと考えられます。それは、神社の安定した運営につながります。

効果② 【神職の意識の向上】

「神社に居場所がある」ことで神職の意識の向上につながります。神社にいて初めて感じることで、参拝者との会話で初めて気づくこと、多くの「気付き」を得れると思います。白衣を身に着ける時間も増えるでしょうし、「自分が神職である」ことを強く感じるようになることが予想されます。

青年会では「移動社務所」の運用を通じて、令和の時代に合った神社の在り方を探求していきます。ご意見や活用方法、ま

数多くの方の利用をお待ちしております。



出張先でセッティング中



将来に向けての船出

た「ぜひ、私の神社でも!」といったお問い合わせは事務局までお願いいたします。本年の活用実証を通して、実際に運用してからの効果などは、改めてご報告できればと考えています。今後の展開に乞うご期待です!!



早速の参拝者♪

神道青年四国地区協議会 ウェブ研修会報告



【報告者】

愛媛県神道青年会会員
伊予郡 高忍日賣神社
権欄宜 後藤 正明

例年、四国四県の持ち回りで行われている四国地区協議会主催の研修会。今回は我々が愛媛県神道青年会の当番のもと、令和三年九月八日(水)午後七時よりウェブ上での開催となりました。

今研修会の目的は、昨年度の神道青年全国協議会「神職魅力発信事業」において、四国四県から選ばれた四氏の魅力に迫り、彼らの活動から個々が目指す神職像について考えてみようというもの。私は、主題「あなたの知らない神職の魅力」に心惹かれて参加させていただきました。

コーディネートに愛媛県八幡浜市のNPO法人八幡浜元氣プロジェクト代表の浜田規史氏を迎え、井上雅仁氏(愛媛県・大元神社権宜)・内田正和氏(徳島県・三所神社権宜)・櫻木崇浩氏(廣田八幡神社権宜)・村田力氏(高知大神宮権欄宜)の四氏にお話を伺いました。

ご挨拶の後、小グループに分かれてそれぞれの方から取り組まれている活動に関して詳しくご説明いただき、参加者からは多くの質問がなされ、有意義な時間となりました。最後に各グループでの話し合いの結果をまとめ、参加者全員で各々の理想とする神職像を紙に書いて発表しました。

今回の研修会を通して四国の若手神職の仲間と親しく語らい和気あいあいとした時間を過ごしながら、神職としての原点を改めて自分の中に明確にすることができました。神職同士の交流を深め、社務へのモチベーションをより一層高める良い機会を与えていただき、誠にありがとうございました。



若手神職のつながりを結ぶことができました。

愛媛県の宇和海に面する日本有数のみかんの名産地、真穴地区。太陽の恵みを受けて育った「真穴みかん」は、薄い皮と甘い果肉が特徴のブランドみかんです。



愛媛県八幡浜市の大元神社と神主の井上さん

氏子さんが育てたみかんを全国へ！
みかん販売会社の社長を務める神主さんに聞いた

大元神社（愛媛県） 井上雅仁 禰宜 インタビュー

農業と神社の結び

今回インタビューしたのは、真穴みかんを販売する会社「匂香物産」の社長も務める神主の井上雅仁さん。真穴地区から近い大元神社に生まれ、神主として地域の神社を守りつつ、経営者としては全国に、氏子さんたちが育てた真穴みかんを届けています。

月間百二十万ユーザーが集まる神社・お寺・御朱印の検索サイト「ホトカミ」では、「神主さんの言葉を通じて、神主さんや神道の魅力を伝えたい」という想いから日本全国十名の神主さんのインタビュー記事を公開しています。

「神主の家系に生まれて、なぜ会社の社長になったのか？」「社長と神主を両立させる井上さんの、会社の経営理念『結ぶ』に込めた想いとは？」など、氏子のほとんどがみかん生産者という珍しい地域で、みかん産業と神社を守るために奮闘する井上さんの想いに迫ります。

氏子さんのほぼ100%がみかん生産者！
氏子さんと神様・全国のお客様を繋ぎたい

井上さんは神主でありながら、会社の社長も務めていらっしゃるって聞きました。どんな会社を運営されているんですか？
地元、愛媛県の柑橘類を通信販売する会社の社長を務めています。電話やオンラインショップを通じて注文の受付から、出荷までを行っています。

主力の商品は、宇和海に面する真穴地区で育った「真穴みかん」。海に面した水はけのよい段々畑で、太陽の光をたっぷりと浴びて育った真穴みかんは、天皇杯・農林大臣賞に選ばれた日本有数のブランドみかんです。

実は真穴地区は、我が家が兼務している神社の氏子地域でもあり、氏子さんのほぼ100%がみかん生産者なんです。全国的に見ても特殊な地域だと思います。

今日も数多くのお客様からご利用いただいております。



真穴地区で生産される温州みかん

私は神主としては、「氏子と神様を繋ぐ仲執り持ち」であり、社長としては、「生産者である氏子の皆さんが育てた真穴みかんを全国の皆様へ繋ぐ役目」を担っています。平成二十七年から社長を務めていて、今年で六年目になります。社長になってから、真穴地区の生産者さんと話す機会がこれまで以上に増えました。昔は氏子総代などの一部の方としか交流がなかったのですが、今は真穴に会社の事務所があることで、より多くの氏子さんと深く関わるようになっていきます。氏子さんも、私が神主でありながら、みかんを販売する会社の社長である、もちろん分かっている、みかんの話をするために事務所に来た氏子さんから、地鎮祭やお祓いの相談を受けることもあります。私のなかで、神主と社長の仕事に大きな区別はありません。

——社長と神主のお仕事に差がないとは驚きです。氏子さんのほぼ100%がみかん生産者という地域だからこそですね。

やはり農業と神社は関係が深いですね。氏子の皆さんは、神社をとっても大切にしてくれます。

農業は、どんなに手塩にかけて育てても一度の大雨で作物がすべてダメになってしまうこともある仕事。人間にできることは限られていて最後は神様にお願いする、という価値観を当たり前のように持っている方が多いと感じます。だからこそ、皆さん神様を大切にしてくださるんだと思いますね。お祭りで集まっても、みかんの話ばかりしています。「今年の出来はどうだ」「この肥料がいいぞ」といった話で盛り上がるんです。

神主としての考え方が自然と込められた経営理念『結ぶ』
井上さんが考えられた、会社の経営理念『結ぶ』について教えてください。

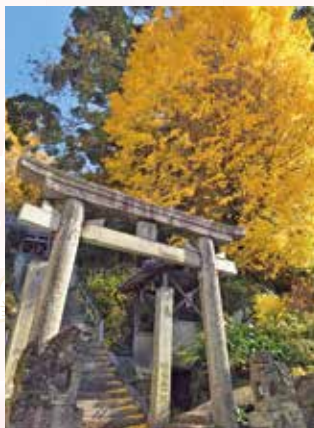
『結ぶ』という経営理念には、「みかん生産者とお客様」「ご依頼主とご贈答先」など、「何かと何か、距離のあるものを繋げる」という意味を込めました。

真穴みかんは、お歳暮などの贈り物用に注文される人が多いです。お歳暮は、注文されたお客様と贈り先のお客様を結ぶ

役割を担うもの。「お客様はものを贈るのではない、気持ちを贈るのだ」と意識して、みかんに託すお客様の想いを大切にしています。例えば、「孫が真穴みかんに貼ってあるシールを集めているので、毎年みかんを送っている」というお客様には、子供が食べやすいように小さいみかんを勧めます。

——事務的な注文でなく、しっかりとコミュニケーションをとっていらっしゃるんですね。

スタッフには「いくら長電話をしてもよいから、お客様と会話をしてください」と伝えていきます。みかんの注文電話を通して、今年のみかんの具合や最近の愛媛について聞きたい方も多いです。「地元のを贈りたい」と、県外にいる愛媛出身の方からの注文も多いです。一万人の顧客がいたとしても、お客様からすれば一対一のお付



井上さんが神主を務める真穴地区の神社・住吉天満神社

自然との関いですので気合を入れています。

き合いです。丁寧な対応をすることが、氏子さんたちが一生懸命育てた真穴みかんのブランド力向上に繋がります。お客様の求めるものと「真穴みかんブランド」を結ぶのも私たちの役割だと思っています。

——ブランドであったり、お客様とお孫さんの繋がりがであったり、多くのものを結ぶ会社。結ぶ対象が氏子の皆さんとお客様だけではないところが、すてきだと思いました。

神主をやっているからこそ、自然と『結ぶ』を経営理念にしようと思ったのかもしれないです。神主の役割は神様と一般の方を結ぶ「仲執り持ち」ですから、真穴みかんの生産者である氏子さんと、全国の消費者を結ぶという意味では、共通するものがあると感じます。

普段は四名のスタッフが働いています。出荷時期の十一月～十二月にかけては二十名近くのスタッフと働きます。『結ぶ』という経営理念については会社に入ってくる前から伝えてありますから、既に私の想いが浸透しているし、短期のバイトから社員になった子もいます。

神話のふるさと・島根で「生活に近い神社の在り方」に気付き、神主の道へ

——たしかに神主さんならではの経営理

念だと感じます。続いて、神主の家系にお生まれになってから、今までの経緯をおうかがいしたいです。

田舎の神主の家に生まれると、まわりから将来あとを継いで神主になるんだろうと言われて育ちます。敷かれたレールの上を走るのは嫌でした。将来は学校の先生になりたいと考えていたので、大学は島根大学教育学部に進学しました。

ところが、レールから外れる気持ちで行ったはずの島根は、神社が生活に密着している地域でした。学校の学芸会で古事記の劇をやるなど、日常で神道に触れる機会がたくさんあります。神主の家で育った自分よりも神道や神話に詳しい人が多かったり、小さい神社なのに夜も明かりがついてお参りする方がいたりするんです。地元の愛媛とは違う神社の在り方を見て、神社に興味を持つようになりました。神社に意識が向くと、いたるところに神社があると知り、神社めぐりにはまったんです。ご祭神や歴史など神社ひとつひとつに個性があることが面白くて、島根県内のいろいろな神社にお参りしました。

こうして改めて神社は生活に根ざしたものであると気付き、自然と神主になりたいと思うようになりました。

大学在学中に、神主研修に参加します。は

じめて古事記についてきちんと教わりましたし、お祭りの作法も学べて、とても楽しい一ヶ月間でした。出雲大社の横の建物で研修が行われていたので、当時発見されたばかりの鎌倉時代の本殿の柱の発掘調査を毎朝見られるんですよ。加えて、講師は島根県内の神社の方々なので、自分が今までにお参りした憧れの神社の神主さんの話を直接聴ける機会も多く、嬉しかったです。

その後、より深く神道について学びたいと思い、國學院大学の神道学専攻科に進学しました。神道学専攻科は一年間で神主になるための勉強をするところです。専門性の高い神道の勉強をはじめ、明治神宮や伊勢神宮での実習があり、多くの経験をさせてもらいました。

できるだけ多くの市民と関わるうとした市役所時代

——専門的に神道の勉強をなさったあとは、すぐに神社に奉職されたのですか？

どこかの神社に奉職することも考えたのですが、最終的には地元の八幡浜市役所に就職しました。いつかは地元に戻って実家の神社を継ぎたいと考えたときに、県外の神社に奉職して四十歳くらいで地元に戻っても、仕事がないことに気付いたんです。実家の神社だけでは、なかなか食べていけ

神道は生活のいたるところに密着しています。

ません。若いうちに地元に戻って職を得て、空いた時間に実家の神社を手伝おうと考えました。当時付き合っていた彼女、現在の妻に公務員をすすめられ、市役所職員になりました。

また当時は平成の大合併の時期で「合併後の新しい市名は何がいいか」と話題になっていました。市役所の面接試験でも新しい市名について聞かれ、「八幡浜は九州の八幡大神様とのご縁がある土地。もちろん『八幡浜』のままがいいです」と答えました。神話が生きる島根で過ごし、國學院大学で本格的に神道を学んだことで、言葉の起源や地名の由来は大切だと身にしみていたので、迷いはなかったですね。

——市役所ではどういったお仕事をしてたのですか？

市役所時代は、生活環境課と農林課で働きました。農林課はみかんをはじめとした農産業に関わる仕事です。農林課時代は、「八幡浜市みかん課」というFacebookページを開設し、みかんや生産者のことを全国に発信していました。「八幡浜市農林課」でもよかったのですが、みかん生産者大切にしていると伝えたかったのであって「みかん課」と名づけました。

——市役所時代に意識されていたことはありますか？

できるだけ多くの市民の方と関わりを持つように思っていました。市役所も、市民の方が行政に関心を持たなくなったら立ち行かないです。意見をくださることはありがたいことです。みかん生産者の皆さんの声をよく聞くようにしていましたし、用がなくても、市役所に訪れる人を増やしたいと思っていました。実際に、お茶やタバコを一服だけして帰る方もいらつしやいましたね。何気ない会話のなかから「みかんの売り方を変えたいんだよね」といった生産者の方の本音が聞けるので、コミュニケーションは大切です。おそらく人と人の間に入るのが好きなのだと思います。もともと私の根底には「結ぶ」という考え方があったのでしようが、市役所時代を通してより「結ぶ」への想いや考え方が明確になっていきました。「匂香物産の社長をやってみないか」と声をかけてもらったのも、みかん生産者の皆さんと良い関係性を築けていたからこそだと思っています。前の社長から「地元に戻ることにあったから社長をやってほしい」と頼まれ、引き受けたんです。市役所を辞めて社長になるなんて、人生を左右するくらいのお声がけをいただくこと、普通はあり得ませんよね。それだ

け市民の皆さんと深い付き合いができていたのだと知り、公務員冥利につきましたし、市役所の職員をやり遂げたと感じました。

みかん産業が残るから、

百年後にも神社が残る

——井上さんにとっての神道の魅力はなんですか？

決して特別なものではなく、日常のなかに溶け込んでいるところが魅力だと思います。日本に住んでいれば、どこにでも神社はあって、どこかで必ず神社と関わっています。特にうちの地域では、みかん産業と神道が生活に根付いています。「結ぶ」という経営理念も、私のなかに神道の考え方が当たり前にしみついていたので、出てきたのだと思います。

——最後に、神主と社長を両立されている井上さんの、今後の展望を教えてくださいませんか？

自分の神主としての役割は、時代が変わろうが政権が変わろうが揺るがずに存在してきた神社を、百年先千年先にも残すことだと思います。しかし地域の産業がなくなつて人がいなくなってしまうたら、神社は残していけません。神社を残すためにみかんを育てるといふ考え方は、生活が成り立

大元神社の情報

所在地…八幡浜市若山六番耕地

一八六番地

アクセス…JR予讃線

双岩駅から徒歩十五分

電話番号…0894-24-4523

協力…神道青年全国協議会

《ホトカミより出典》



生活し続けます。人がいる限り、神社を無くそうとはなりません。ですから、社長として地域の産業を守り、神主として地域の神社を守っていかなくてはならないと考えています。

ちません。あくまでも自らの生活や地域の産業を守るとい考えが基本にあつて、その結果として神社が残るのだと思います。真穴というほは100%の人がみかんに関わる地域で産業があり続ける限り、人は生活し続けます。

参拝啓発ポスター

発送作業報告

【報告者】



愛媛県神道青年会 理事
西予市 野坂神社
宮司 進藤 雄作

去る九月十八日(土)午前九時より、松山市余戸東に鎮座する三島大明神社に於いて、令和四年参拝啓発ポスターの発送作業を副会長以下五名で行いました。社務所をお貸し頂いた玉井副会長におかれましては、

お忙しいなか早朝より社務所の準備、不足していた梱包材料の買い出しまでご協力頂き、ありがとうございます。ありがとうございました。

感染症対策で各種行事は中止やオンライン開催、当会役員会もウェブ開催が当たり前になりつつある中で、私が今期の役員と顔を合わせるのは初めての

鳥居の向こうに
新たな出会い

令和4年 壬寅
(暦記 2022 年)

年賀状		賀状	
白鳥	黒鳥	白鳥	黒鳥
19歳	20歳	21歳	22歳
23歳	24歳	25歳	26歳
27歳	28歳	29歳	30歳
31歳	32歳	33歳	34歳
35歳	36歳	37歳	38歳
39歳	40歳	41歳	42歳
43歳	44歳	45歳	46歳
47歳	48歳	49歳	50歳
51歳	52歳	53歳	54歳
55歳	56歳	57歳	58歳
59歳	60歳	61歳	62歳
63歳	64歳	65歳	66歳
67歳	68歳	69歳	70歳
71歳	72歳	73歳	74歳
75歳	76歳	77歳	78歳
79歳	80歳	81歳	82歳
83歳	84歳	85歳	86歳
87歳	88歳	89歳	90歳
91歳	92歳	93歳	94歳
95歳	96歳	97歳	98歳
99歳	100歳		

お送り・ご郵送は、お近くの民神様・御霊神社へご郵送ください。

愛媛県神道青年会
shimamatsuri.jp

事でした。そしてこれまでは平日に愛媛県神社庁で行われていた発送作業も、今回は参加者不足により数日に分散し土曜日が含まれていた為、兼業の私は発送作業に初めて参加することが出来ました。

当日は作業の前に、移動社務所の披露会。境内に停車する軽トラックの荷台で展開された社務所の随所で井上副会長のセンス溢れるDIYテクニクが光り、手作りのお守り用陳列棚や行灯で装飾された社務所、移動社務所専用の手作り御朱印に一同驚かされるばかりでした。その後、社務所にて各宮司様宛にポスターを梱包し、支部

ぜひ氏子崇敬者に見ていただくために掲示をお願いします。



ポスター発送作業

や分会毎に纏める作業を行いながら、久々の再会に話が盛り上がったたり、かと思えば無言で黙々と作業を進める時間があつたりと、作業は順調に進み社務を終えて柳原監事が進捗の心配をして駆けつけて頂いた頃には作業もほぼ終わり、予備日を含め三日間予定していた発送作業は一日で完了しました。

このポスターがご社頭で活用され、氏子崇敬者への参拝啓発の一助となれば幸いです。

Q1. 事務局長の仕事はどのようなことをされるのですか?

青年会の会議の資料を集めたり、神青協からのメールを各会員に配布する裏方のような感じですね。最近はLINEやメールで周知できるのでかなり便利になりましたね。本当にとりまとめの役なので根気と要領が



今回は対面ではなく
Zoomで事務局長を
取材しました。

石鎚神社 権禰宜
曾我部 洋輔 (三十六歳)

こんにちは
事務局長

問われますね(笑)事業を担当するわけではないので各部会の頑張りを応援しています。

Q2. 選ばれた理由は?

青年会としてある程度経験がある人でいろんな人とパイプがあるかなあと。とりまとめとなると青年会の行事や流れをわかってないと会が滞ってしまうからね。

Q3. やりがいについて

全国のいろんな人の情報が入ってくるから楽しい。まったく知らない人から青年会の行事のことについて問い合わせがあつてあれこれ説明するのもわくわくしちゃいましたね。

Q4. コロナ禍で苦しかったこと

やっぱり事業もできないし、直接人に会えないのが辛いですね。役員会とかもこのZoomですからね。コロナ禍なのでお酒を飲みながら語り合うのもできないので面白くない。

Q5. どのような青年会にしていきたい?

意見をだして新しいことをどんどんしていきたい。ただ、事業を増やしても負担となつたらいけないので新しいことをするなら今までしてきたことをちよつと止めないと面白くなってしまう。

Q6. 楽しかったことについて

九月のウェブ研修会が一番楽しかった。MCみたいにしてもらつて本当に時間が少ないと感じてしまうほどでした。

縁の下の力持ちですね。お疲れ様です!!

Q7. 趣味について

十年くらいスノボをしていて、Myボードで滑るのが楽しいですね。ちょうど仕事場である石鎚にもスキー場があるので、つてこいですね。青年会のメンバーで楽しく滑る事業もあったらいいですね。あとはサッカーを小学生から大学生までやっていてフットボール以外のポジションはほとんどしましたね。

Q8. 一番大切なもの

家族(息子)が一番やね。所帯持ちになつて本当に大切なもの「愛」を理解できたことかな。

Q9. 役員に対しての愛の言葉

レスポンスを早くすることで迅速な対応ができるので常にアンテナを立ててもらいたい。



御案内

* 新年研修会

『先の大戦の傷跡』
について学ぶ

先の大戦の終戦から約七十五年以上経とうとしています。しかし戦後に育った私たちは今立っている場所も、普段目にしている街も、すべての場所に戦争の影響があり、つらい思いや悲しい思いをした人がいたことを改めて学ぶ必要があります。そこで今現在に大戦の傷跡として残っている土地を訪問しその歴史等について学ぶ研修会の第一陣として、講師を招いて佐田岬灯台にありますが佐田岬砲台について研鑽を図ります。



佐田岬灯台



昼食は「佐田岬はなはな」で食べます。



大人気の大鮮丼



砲台

またとない機会ですので是非学んでいきましょう～

【高嶋賢二先生のプロフィール】



所属 伊方町役場 町見郷土館 学芸員
業務 町内の歴史・文化・自然・産業といった
 色々な分野で地域の特性を調査研究し、
 地域のこれまでの歩みを残すために資料
 の収集や保管。それに関連した企画展や
 講演会・見学会を実施しているなど、文
 化アンバサダーとして活躍。

著書

【共編著】

『もつと博物館が好きっ！ーみんなと歩
 む学芸員ー』『佐田岬みつけ隊の調査活
 動』教育出版センター

【共著】

『石造物が語る中世の佐田岬半島ー運び込
 まれた各地の石材』『佐田岬みつけ隊の
 石造物調査』岩田書院ブックスレット歴史
 考古学系平成九年、二〇一一

【共著論文】

『伊方町で発見された愛媛県最古の四国遍
 路日記』『愛媛大学四国遍路・世界の巡

礼研究センター研究紀要「四国遍路と世
 界の巡礼」(4)』

日時…令和四年二月九日(水・先負)

集合…九時三十分 佐田岬はなはな駐車場
 愛媛県西宇和郡伊方町

三崎一七〇〇ー一

準備物…運動靴、服装私服(節度のあるもの)

✳ 令和三年度

✳ 神道青年全国協議会中央研修会

主題…発信力

～郷土を愛してやまない若者たちへ～

期 日…令和四年三月九日(水・友引)

～十日(木・先負)

会 場…新潟市音楽文化会館

【所在地】新潟県新潟市中央区

一番堀通町三一二

研修内容…

第一日目

【第一講】

演題…「起業家の力で

故郷(ふるさと)を元気に

～神社の魅力発信と未来を考える～」

講師…渋谷 修太先生

(フラー株式会社

代表取締役会長)

【第二講】

演題…「我が国を取り巻く

安全保障環境」

講師…佐藤 正久先生

(参議院議員)

第二日目

【第二講】

演題…「青年神職の皆様へ

～郷土の精神的支柱と実践者であれ～」

講師…池田 弘先生

(株式会社NSGグループ会長)

✳ 神道青年四国地区協議会

✳ 第二十八回定例総会並びに研修会

主題…「更なる祭祀の厳修の為に」

期 日…令和四年六月八日(水・友引)

午後〇時二十分～受付

会 場…高松国際ホテル

【所在地】香川県高松市木太町

二二九一一

研修内容…

【第二講】

演題…「現代にいかす神社祭祀と有職故実」

講師…後藤 正明先生

(國學院大學

神道文化学部兼任講師)

【第三講】

演題…「大切な『理念と経営』を磨き上げよ」

講師…柳生 好彦先生

(小豆島ヘルシーランド株式会社

相談役)



新年あけましておめでとうございます。